

STORY

– Planner's eye –

Aug.
2019

ふたりに寄り添い、希望を叶えた結婚式を実現する、
熱い想いを秘めるウエディングプランナーをご紹介します。

取材・文／塚本正一 撮影／保田敬介(メインカット)
D／鶴矢貴子、入江基代

どんな形でも結婚式に関わる仕事がしたいとずっと思っていました

ふと思ひ出した時に
笑顔になれる
色あせない一日を

高校時代にフランスの仕事に慣れ、ブラジルダルの高商学校を終えて夢を叶へた逸田さん。高商学校で學んで3年目を迎え、心掛けているのが早く新嘉坡のふたりとできるだけ早く打ち解け、信望関係を築いていくことだ。早くいゝ関係が築ければ、早い時期からわふたりにいゝ話や真の気持ちを聞くとができ、それを生かして無難な結婚式ができると思ふうんで。それを家藏したのが、実例に榮えていくカッパルだとも。

「わふたりの地元は岐阜県の郡上」

私、地ノ部上に出た。つたところから、最初おおいした。ふからん意図、探合し、話初めおおいした。時々から出さ、話した。地ノ部上に対する思いや、これまた、まなきてくれれた家族や友、人への思い。愛が溢れる、ふたりの話を聞くうちに、おのずと「愛情」をテーマにランニングが進んでいった。

そんな中、チャペルで和婚人前式を予定してあったりから、三三九度までを予定してあったり、それを学んで、けて澤田くんは、巫女さんと呼ばれる、行の本格的に三三九度ではなく、三

新郎新婦の一番の相談相手に
さわだしほ
澤田志保さん

プランナー歴3年目。趣味は料理で現在、和食を勉強中。休日はライブや音楽フェスに出掛けリフレッシュ。岐阜県出身。

三九度の暑さを取り除いたセレニイにアレンジするのを提案。おいにふりまじへ準備のできた都部の地酒を互いにぎっさい、杯を交わして愛を深めるこのスタイルにしたとて、地元の親族の愛も表現する演出。誌口語録しながら考えたセレニイは、心に残る印象的なシーンナオとして、これまでに60組以上の結婚式を指折してきた澤田さん。その中で、式司役はもちろんのこと、それを行っていく過程の大切な導き手という。最初の頃は、式言を素通りしていっただけはいらぬと思っていました。でも毎日式が終わるのではなく、式後何かが、一時に思ひ返って幸せな気持ちになつてもいいくらいなことを、そのためには、打ち合わせから率直にできてないといけなしいと思ひます。返して、準備した時のことを思ひ返した際、ふと私の顔を思い出して浮かべたような表情はうれいです。

— わたしの忘れられない結婚式 —



▲プレゼントプールのほか、ゲストによるフラッシュモブなどもあり、たくさんの笑顔が見られました



▲チャペルでの人前式。三三九度の腰率を取り入れつつも、ふたりらしいセレモニーにできました



▲退場前にハグをされ、ゲストの方々へも一礼。ふたりの愛、ゲストへの愛をしっかりと表現されました。



▲中庭の扉は新郎新婦ともにそれぞれのご兄弟がエスコート。家族への愛が溢れる微笑ましいシーンに

今回
ご紹介させて
いただいた
カップル



Dさん・Mさん

本当に世話になりました。スタッフの方々がみなさんととても丁寧で温かく、楽しめました！この日を一生忘れません。

【問い合わせ先】

EXEX SUITES
(エグゼクス・スウィーツ)

岐阜駅徒歩2分的好立地。今春、2つのバジェットがリニューアルされたばかり。スタイリッシュな空間でコンセプトualなパーティが叶う。TEL:0120-946-807